

(2) 災害関連広報

台風被害からの一年間、市広報紙等において、市の対応及び改善策、市民の皆様の日頃の備えについて、広報を実施しました。

ア 市広報紙「あしかがみ」

2020年8月号

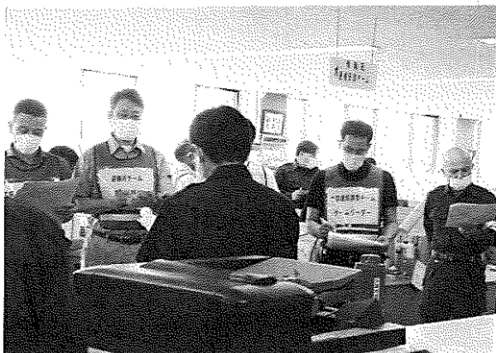
令和元年東日本台風対応の検証結果と今後の改善策

危機管理課・☎22247

昨年10月の同台風の教訓を踏まえ、課題の分析や検証を進めてきましたが、その結果を以下の8つにまとめ、改善策を整理しました。

初動体制の強化

今年度、43人の職員に危機管理課への兼務辞令を発令しました。6月27日には同職員に加え、関係機関も交えた情報伝達訓練を実施しました。



▲情報伝達訓練の様子

河川などの情報伝達

国、県、市の三者で水門の開閉操作にかかる情報を共有し、洪水の危険性が高まった場合には、水門の開閉操作の状況も含めた防災情報を、市民の皆さんに確実に発信するための連絡体制整備を進めていきます。

避難所の増設、環境改善

これまで、足利大学や民間のコンテナホテル(株)デベロップと災害時の協定を結びました。今後とも同様の協定締結を積極的に進めます。

災害ボランティアセンターの運営支援

被災者のニーズに迅速に対応するため、同センターと連携し、相互に支援情報を共有して対応にあたります。

また、災害時応援協定を締結している関係団体と連携し、災害ボランティア活動に必要な機材を確保します。さらに、災害ごみなどの搬出用運搬車両への燃料優先供給について関係機関と協議をしていきます。

風水害のみならず、さまざまな災害などへの対策についても、今後着実に進め、安全安心なまちづくりを進めてまいります。

状況に応じた情報などの迅速な発信

自治会の皆さんによる地域連絡網の構築を支援しています。

迅速な指定避難所の開設、運営

指定避難所の早期開設のため、指定避難所の近くに住む職員、地域住民、公民館でカギを管理する体制を整えます。

地域防災力の向上

河川からの浸水被害が特に大きかった毛野、富田地区の暫定版ハザードマップを作成し、両地区に配布しました。

同マップには、6月5日に公表された一級河川・旗川の浸水想定区域図のほか、同台風の浸水結果を表示するとともに、両地区の皆さんから寄せられた当時の体験談や地域の危険箇所などのご意見を反映させています。



災害廃棄物

災害廃棄物の仮置場の設営・運営に関するルールなどを整理します。

また、自治会が仮置場を設置した際の管理ルール、自治会内への周知方法、処理困難物の明示などを整理します。

市の 市民の 新たな防災対策と避難及び心構え

足利市危機管理課：地域防災担当提供

昨年本市を襲った令和元年東日本台風(台風第19号)は、市内に甚大な被害をもたらし、現在でもその復旧・復興活動が行われています。

今年も出水期となり、日本各地で大雨による被害が相次いでいます。さらに、台風が日本列島に上陸するシーズンとなり、昨年のように大規模な風水害が懸念されています。

ここでは、風水害や震災に対する事前の備えとして、市などで新たに取り組む防災対策や、コロナ禍における避難についてお知らせします。

1 災害への備え

市では、昨年の台風被害を経験し、その教訓を活かしていくため、市民の皆様と協力し、全庁を挙げて市の防災力強化を進めています。

1番目として、地域連絡網の再構築です。避難勧告、避難指示を迅速・的確に、地域の皆さんに伝えるため、自治会に地域連絡網の再構築をお願いしています。ホームページやメール、SNSなど伝達手段はさまざまな方法がありますが、そういった情報を得られない方も数多くいます。昔ながらの方法ですが、地域の皆様が安全を確保しつつ、地域の共助の力で早めに避難を促し、命の危険から身を守っていただくためお願いしているものです。

2番目は、指定避難所の早期開設です。昨年の水害時には、避難所の開設に課題がありました。そこで、指定避難所ごとに総勢222名による「緊急地区隊」を整備するほか、指定避難所の鍵を近くに住む地域の方や市職員が保管し、夜間・休日でも迅速に避難所を開設できる体制づくりを行いました。

また、夜間に避難することは多くの危険を伴うことから、市民が明るいうちに避難ができるよう昨年の台風を模した水害時の情報伝達訓練や避難所開設・運営訓練を実施し、台風等による大雨に備えています。

3番目は、危機管理体制の強化です。

台風第19号のさなかでは、道路冠水や人命救助などに関する1200件ほどの通報が市民や消防団からあり、情報処理等に混乱が生じました。今後そういったことが起きないように、43名の危機管理課兼務職員を配備し、いざ台風が来た時にはおよそ50名の職員体制で対応することにしました。同時に、国県に情報伝達職員を派遣し、ダム放流や河川情報、水門開閉などの情報をいち早く察知できる体制としました。今後も訓練を行いながら、よりきめ細やかな災害対応ができる体制

づくりに努めていきます。

4番目は、富田・毛野地区の暫定版ハザードマップの作成です。河川の越水などで特に水の出方が激しかった富田・毛野の2地区に対し、今出水期に備え暫定版のハザードマップを作り全戸に配布しました。作成にあたり地域の方々にご協力いただき、被害の実態や声を反映した画期的なハザードマップになっています。

なお、来年度には、市内全域の新たなハザードマップを作成し、全世帯に配布する予定です。

2 コロナ禍における避難

現在、新型コロナウイルス感染症が収束しない状況が続いています。コロナ禍において災害が発生した場合の避難所における三密(密閉・密集・密接)対策が課題となっています。

そのため、市ではコロナ禍における避難所開設モデルとして、避難所対応職員を対象とした訓練を実施するとともに、開設運営マニュアルの作成、避難者受け入れ体制の確認や間仕切りなどで使用する資機材の準備を進めています。また、今までは学校の体育館が主な避難スペースでしたが、校舎内の他のスペースも使い三密を避けつつ避難者の事情に合った対応ができるよう備えています。

今後の避難にあたっては、密にならないようにということが一つ大きなポイントとなります。コロナ禍における避難のポイントは後半部分にまとめましたので、ぜひ事前の備えとしてご確認ください。



コロナ禍における避難所開設・運営訓練(8/19けやき小にて)

3 中橋の架け替え

本市は、市街地の中央部に一級河川「渡良瀬川」が流れています。この渡良瀬川は、市民の憩いの場でもあり、やすらぎを提供してくれる重要な河川ですが、近年の豪雨による河川氾濫の危険性も持ち合わせている河川です。特に「中橋」は、堤防が割れこんでい

で低くなっており、水害の危険性が極めて高い重要水防箇所に指定されています。

昨年の台風時は、中橋の左右岸から氾濫する危険があったことから、大型土のう積みを行いました。

中橋の架け替えについては、国県との協議を行っており、近い将来に架け替えるというところまで話が進んできました。



中橋の水防訓練時の大型土のう積み

4 おわりに

市は、令和3年1月に市制施行100周年を迎えます。多くの先人たちが築いた歴史・文化・伝統を礎に、次の100年を展望し、人々が元気で輝き続けるためには、市民一人ひとりが安全安心な生活を維持していくことが大切です。

自分の命は自分で守る「自助」、地域で協力して助け合う「共助」、行政による防災への取組「公助」の3つがそれぞれ連携し、市民と行政が一体となって新しい時代の災害に備え、取り組んでいきましょう。

《コロナ禍における避難のポイント》

風水害や地震に備え、予め自分の避難行動を確認しましょう。

コロナ禍の避難所は、密閉した空間に多人数が密集する「三密」の条件がそろいやすく、感染症のリスクが高まる恐れがあります。

1 避難先を検討

- ・避難とは、「難」を「避」けること。自分が安全な場所にいるかどうかを考えましょう。
- ・指定避難所に行くことだけが避難ではありません。

2 風水害時の取るべき行動

- ・在宅避難(自宅の2階以上の場所など)でも安全か、ハザードマップや過去の水害等を踏まえ検討しておきましょう。
- ・自宅が危険な場合の避難先として、安全な親戚や

知人宅、ホテル等への避難も考えておきましょう。

＜風水害時の警戒レベルと取るべき行動＞

| |
|--|
| <p>警戒レベル2 避難行動を確認</p> <p>大雨・洪水注意報が発令されたとき</p> |
| <p>警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始</p> <p>避難に時間を要する方は避難開始</p> <p>大雨・洪水警報が発表され、市から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき</p> |
| <p>警戒レベル4 避難勧告又は避難指示(緊急)</p> <p>全員速やかに避難 ※危険な場所にいる方</p> <p>氾濫危険情報や土砂災害警戒情報が発表され、市から避難勧告又は避難指示(緊急)が発令されたとき</p> |
| <p>警戒レベル5 災害発生情報</p> <p>命を守る最善の行動</p> <p>すでに災害が発生しているとき、氾濫発生情報や大雨特別警報が発表されたとき</p> |

3 大地震時の取るべき行動

家庭では

- ・頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難をしてください。
- ・あわてて外に飛び出さないでください。
- ・可能な範囲で火を消してください。(まずは、身の安全を優先する。)

自動車運転中は

- ・ハザードランプを点灯し、ゆっくり減速し、まわりの車に注意を促してください。
- ・大きな揺れを感じたら、道路の左側に停止してください。

避難所へ行く場合は

- ・余震が発生する場合がありますので、頭部を保護し、なるべく安全な場所を通りながら避難してください。

4 避難所での感染予防

- ・コロナ禍でも災害時に危険と判断したら明るいうちに迷わず避難しましょう。
- ・避難するときの感染予防として、マスク、消毒液、体温計はできるだけ持参しましょう。

豪雨襲撃 4人死亡

台風19号で県内

決壊、河川氾濫相次ぐ

一時1万9000人超が避難

台風19号による記録的豪雨に伴い、県内は12日夜から13日にかけて佐野市の秋山川など各地の河川で堤防の決壊や氾濫が相次いだ。豪雨などに関係するとみられる事故で足利と栃木、鹿沼市で4人の死亡が確認された。けが人は栃木や佐野など5市に計17人。県内の避難者は同日朝の時点で約1万9千人に達し、午後2時の段階でも約2千人に上った。県内14市町に発表された大雨特別警報は同日未明に解除された。県の派遣要請を受けた自衛隊は、大規模に浸水した地域などで救出活動に当たった。



下野新聞 2019/10/14号掲載

県内12日

9地点観測最大降雨量

塩谷413ミリ、宇都宮325ミリ

台風19号の影響で県内は記録的な豪雨となり、12日の日降水量は県内全14観測地点のうち、塩谷413・5ミリなど9地点で観測史上最大となった。市内の河川の堤防が決壊したり、氾濫したりした佐野や鹿沼などでは、2015年9月の関東・東北豪雨時の日降水量を上回る雨を観測した。

佐野など 関東・東北豪雨上回る

宇都宮地方気象台によると、本県に台風が接近した12日の日降水量が観測史上最大を観測したのは他に宇都宮325・5ミリや大田原298・5ミリ、真岡209・5ミリなど、十部部3695

みや奥日光481ミリなど5地点が観測史上2位や3位を記録した。

関東・東北豪雨の際に、日降水量が観測史上1位となっていた佐野は、今回のでも、関東・東北豪雨時を

台風で当時は98ミリ上回る261・5ミリに達した。鹿沼では同じく44・5ミリ多い370ミリ。小山(213・5ミリ)や今市(383・5ミリ)も、県内は12日午後7時50分、宇都宮やさくら、鹿沼、佐野、塩谷、那須など14市町に大雨特別警報が発表され、13日午前2時20分に解除された。

上回った。

一方、台風の影響による雨が県内で降り始めた11日午前0時から13日午前11時までの総雨量は奥日光512・5ミリ、土部424・5ミリ、塩谷423ミリなどとなり、10月の月平年値の2・5倍以上になった。また台風の接近に伴い、12日夕方から13日未明にかけて、県内でやや強い風や強い雨が吹いた。宇都宮では12日午後11時10分ごろに、最大風速16・7メートルを記録。奥日光では13日午前0時55分ごろ、10月の観測史上最大となる最大瞬間風速34・1メートルを観測した。

河川の主な決壊、氾濫箇所

※県のまとめによる





「高所避難していれば」 車水没で母亡くした長女

判断の迷い悔やむ

下野新聞 2019/10/17 号掲載

避難

「避難所の富田小、富田中はまた開けられない」
12日午後8時ごろ、足利市寺岡町の山本祥嗣自治会長(69)の自宅に市職員から電話が入った。避難所を開設する市職員が、両校に到着していなかった。
日中からの雨は弱まる気配がない。道は一部で冠水が始まっていた。山本会長は、寺岡町自治会館を急ぎ避難所にする決めた。自治会の仲間と電話や訪問で隣近所に知らせる回り、

台風19号直撃 県内2度目の特別警報

「いざどく」に「届かず」

迫られた自己判断

が命を落とした。
同じ県道で同じ避難中に、軽乗用車が水没した別の女性(56)は振り返る。「まるで大河のようだった」



足利市が毛野公民館に開設した避難所。同市では最大で市民約1800人が避難所に身を寄せた＝16日午後、足利市八門町

で見つかり、死亡が確認された。付近は当時、停電していたとみられる。近くの会社員長正盛さん(52)は12日午後10時すぎ、自家用車で近くの高台へ逃げた。「早めに避難して良かった。既に永野川の支流の水があふれていた。複数の住民によると、一帯は12日深夜、13日未明、川のようになっていたという。亡くなった女性が暮らした集合住宅の高層階に住む番屋業倉持盛(さん67)は自宅にとどまった。早朝、水が引くのを見届け安堵したが、「管理組合や管理がいないわけでもない。自己判断だった」
いつ避難すべきか、どこに逃げるべきか。広域に被害をもたらした台風19号は、自らの判断が自ら家族の安全を左右する事実を突き付けた。

下野新聞 2019/10/19 号掲載

足利の女性死亡

浸水想定区域外で車水没

市、ハザードマップ反映へ

足利市寺岡町で12日夜、台風19号の影響で避難中だった乗用車が浸水し、乗っていた同所、無職女性(86)が死亡した現場が、市洪水・土砂災害ハザードマップの浸水想定区域に指定されていないことが18日、市への取材で分かった。

市は2013年に市全域のハザードマップを公表。市によると、このマップは渡良瀬川の本流など国直轄の河川による浸水区域を想定しており、今回の現場近くで氾濫した旗川の流域は対象外だったという。国や都道府県は15年の関

東・東北豪雨後、従来の想定を超える降水に対応した河川の洪水浸水想定区域図を公表。市もこの区域図を踏まえた見直し作業を進めていた。
女性が乗っていた乗用車は12日夜に自宅を出た後で浸水し、一時はフロントガラスが押しつぶされた。



ラスの上の方まで冠水したとみられる。和泉聡市長は「浸水しないはずの場所が、旗川の越流で浸水した。避難場所も含め、来年の水期前には見直したい」としている。(島野剛)

フラワーパーク ココ・ファーム

台風、人気施設にも打撃

足利

【足利】台風19号は市内の観光地にも爪痕を残した。あしがフラワーパークは園内全域が冠水し、見頃の花が水没、ココ・ファーム・ワイナリーは大雨でブドウ畑の一部が崩れた。来週以降、多くの観光客が訪れる恒例イベントを控える両施設。スタッフ総出で復旧を急いでいる。

(田井伎)

冠水や地崩れ、復旧急ぐ

「花がだめになってしま

ったのは残念。だけれどやるしかない」。迫間町のあしがフラワーパークの従業員＝あしががフラワーパーク
水没した花を片付ける従業員＝あしががフラワーパーク
「花がだめになってしまわれた。季節の花で彩られた約9万4千平方メートルの園内は、大雨や南方の尾名川からあふれた水で冠水。低地の水位は1・8メートルまで上昇したと



水没した花を片付ける従業員＝あしががフラワーパーク



大雨で崩れたブドウ畑＝ココ・ファーム・ワイナリー

同園は現在休園中。再開

は早くとも10日以降になる見込みで、植物の洗浄や植え替えなど復旧作業が続く。多くの観光客が訪れるイルミネーションは予定通り、26日の開始を見据える。同園を運営する足利フラワーリゾートの早川公一(一郎)社長(38)は「これまで通り楽しめる状態にしなければならず」と話した。

山の斜面に約3分の自家畑が広がる田島町のココ・ファーム・ワイナリー。12日の大雨で畑の中央部が崩れ、山肌があらわになった。北側の山林なども崩れ落ち、広報担当者は「開墾以来初めてのこと、何から手を付ければいいのか」と嘆く。台風の前日までに大まかな収穫は済んでいたが、自社の名物ワインに使う2品種のブドウが土砂にのまれた。醸造所の床にも土砂が流れ込んだが、生産への影響は無かったという。醸造の繁忙期を迎え、11月中旬には恒例の収穫祭が控える。広報担当者は「畑が失われたのは悲しいが、今は目の前のワイン造りに集中するしかない」として

台風被害 現場歩き実感 菅原経産相が工場視察

足利



視察後の取材に応じる菅原経産相(中央) 18日午後、足利市川崎町

台風の被害状況などを把握するため菅原一秀(経産相)は18日、足利市の毛野東部工業団地内の企業を視察した。視察後、「足利に来て被害の大きさを、現場の声を目の当たりにできた」と話し、激甚災害指定などの要望を関係関係会議などで伝えていく考えを示した。

菅原経産相は同団地内の金属加工、オクラ金属(足利市川崎町)を視察し、同社内で和泉聡市長、早川慶治(足利商工会議所会頭)らと意見交換を行った。市によると、同団地は金属加工業など11社が立地しているが、工場内に浸水するなど全社が被災したという。意見交換後、和泉市長は「激甚災害の指定、操業支援などを要望し、くんでもらえたいと思う」と話した。

(島野剛)

丹精したトマト廃棄

台風19号より県内ではさまざまな農作物に被害が出た。イチゴに次いで被害が大きいのがトマトだ。中でも足利市は3億3千万円で、全体の5割を占める。浸水の被害が深刻な農家では機械類の故障のほか、手塩に掛けてきたトマトがしおれ、引き抜いて廃棄する事態になっている。収穫は遅れるが、新しい苗の植え替えも始まりつつある。農家は肩を落として、「前を向いて頑張ろう」と気を振り絞る。

(山崎貴徳)

足利の被害深刻



気力絞り植え替えへ

台風19号による浸水で、トマトを植え替えたハウス。吉田さんは近く、新しい苗を植えるという。25日午後、足利市瑞穂町野

一面緑色だったはずの鉄骨ハウスは、がらんとしていた。25日午後、足利市瑞穂町、農業吉田亮さん(30)は「今年はハッキリだつたんだけど」と、1週間前を思い起こした。「ハウスを見ていると泣けてきますね」とこぼした。台風が本県に最接近した12日から、トマトを栽培する別のハウスの土壌も浸水し、定植を終えていたところ、苗が水をかぶった。被害が深刻なのは、作付けする70坪の半分を占める連棟ハウス。大雨と川の増水で、1日30センチに育ち小さな実を付けていたトマト全体が水浸りだった。自分の身も危なく、何もできなかった。吉田さんは悔しがらる。12月中旬ごろに出荷できる見通しだったが、葉が縮みしおれた。栽培を諦め、6千のトマトを一本ずつ引き抜き、畑に捨てた。丁寧に作業してきたのに、悲しいです。

暖房機や高所作業車、水や肥料を自動で与える機械、データを記録していた

生活、作業の場 浸水

足利・佐野 旗川沿い

障害者施設にも爪痕

パソコンなども水に漬かった。トマトと合わせた被害総額は数百万円とみられる。一方、救いもあり、業者から余っていた苗を本を確保できた。週明けからハウスに植え替える予定だ。別のハウスでは、水に漬かったトマトが病気になる。消毒しながら見守る。吉田さんは祖母の後ろを、いり約7年前に就農した。「トマトはみんなを笑顔に」上部に所属する農家48戸の

台風19号の影響で足利、佐野の両市を流れる旗川があふれ、川沿いにある障害者支援施設も大きな被害を受けた。足利市瑞穂町の愛光園稲岡事業所ではクリーニング工場などが再開したものの、23日も職員らが清掃などに追われた。全ての復旧には半年以上かかる見通しという。佐野市小中町の「ちのみ学園」では、床上浸水した1階の入所者が施設内のホールで寝泊まりする生活が続いており、作業所も再開できていない状況だ。(文・写真 藤井達哉)

ホールで寝泊まりも

台風19号

■愛光園稲岡事業所

「トラックで(災害ごみの仮置き場に)、10往復はしたが、まだまだ」愛光園稲岡事業所の川俣監所長(33)はため息をついた。同事業所は、約50坪床上浸水し、電動ベッドとパソコンが各20台、車や床、非常用電源装置などが被害を受けた。

台風が本県に接近した12



日午後8時半。水位は床上に迫り、エレベーターは故障した。重度の身体障害者入所者ら18人を、職員が抱え上げて1階から階移動した。幸い人的被害はなかった。

敷地内のクリーニングの作業所は一部を補修し、21日

から本格的な再開にき着けたが、川俣所長は「施設全体の修繕、復旧にはまだまだかかる」と現状を説明した。「寝泊まりの形は、避難所と同じです」主に知的障害者を支援する「ちのみ学園」の横塚直子副施設長(65)が苦しい心境を語る。食堂や風呂は使えるようになったが、1階などは全て張り替えるを得ない。「復旧は来年度くらいまでかかるかもしれない。こつこつやしていくしかない」と、横塚副施設長は見据えている。

復旧へ「ONE TEAM」

自治会ボランティア結成

足利・稲岡町

住宅や農地、互いに支援

【足利】台風19号で地元の旗川があふれた稲岡町は、全域で水田やビニールハウスに土砂や道路のアスファルトが流れ込むなどの被害を受けた。住宅の浸水被害も相次ぎ、同町自治会（175世帯）は自前のボランティア組織を立ち上げ、共助の精神で復旧を進めている。（島野剛）



アスファルトがはがされた稲岡町の農道。土砂などが農地に流れ込んだ

住民によると、市と佐野市境を流れる旗川が12日深夜、あふれ出したという。水が引くと、農道のあちこちで舗装がはがれ、アスファルトや土砂、倒木などが

水田に流れ込んでいた。刈り取り前の稲も全部なぎ倒された。農業嶋田重雄さん（79）は農地を見ながら「旗川があふれたのは72年前のカスリーン台風以来。言葉が出ない」と落胆した。同町は新規就農者も多い。両親の背中を追って就農して2年目の嶋田有希さん（26）はイチゴのビニールハウス6棟などが被災した。ハウスは倒れ、定植したばかりの苗が土砂に埋もれた。「全滅。苗がかわいそうで」と声を詰まらせながら「二からスタートするしかない」と前を向き、家族や仲間とハウスの片付

けを進めている。トルコギキョウの栽培を始めて2年目の男性（46）は約10万本を育てていたハウス内を土砂に覆われた。「力が抜けてしまう」と嘆きながらも、仲間と土砂をかき出す方策を思案していた。同町自治会は台風が去った14日、役員らが集まりボランティア組織を立ち上げた。自治会員や知り合いの業者などで協力し、被災した住宅や農地の片付けを支援するという。岩澤初彦会長（75）は「応援し合っていきたい。田んぼ、畑が元通りにできるようにしたい」と話した。

A100

One for A, A for One.

2021年、足利市制100周年へ

令和3(2021)年1月

足利市 総務部 危機管理課

情報管理課

TEL:0284-20-2247

FAX:0284-20-2273

E-mail:kikikanri@city.ashikaga.lg.jp